

図書館カレンダー

4月	10 土	▷ミニミニおはなし会 りづらん 15:00~15:15
	11 日	休館 (大信)
	12 月	休館 (りづらん・大信)
	13 火	休館 (表郷・東)
	14 水	
	15 木	▷ミニミニおはなし会 りづらん 15:00~15:15
	16 金	
	17 土	▷子ども向け上映会 『おしりたんてい』 りづらん 13:30~14:10
	18 日	
	19 月	休館 (りづらん・大信)
	20 火	休館 (表郷・東)
	21 水	▷大人向け上映会 『風雲児たち~蘭学革命篇~』 りづらん 13:30~15:00
	22 木	
	23 金	
	24 土	▷ミニミニおはなし会 りづらん 15:00~15:15
	25 日	
	26 月	休館 (りづらん・大信)
	27 火	休館 (表郷・東)
	28 水	
	29 祝	休館 (表郷・東)
	30 金	休館 (大信・東)
5月	1 土	▷大人向け上映会『赤い溪谷』 りづらん 13:30~14:50
	2 日	
	3 祝	休館 (表郷・東)
	4 祝	休館 (表郷・東)
	5 祝	休館 (表郷・大信・東)
	6 木	休館 (全館)
	7 金	休館 (りづらん)
	8 土	▷ミニミニおはなし会 りづらん 15:00~15:15

【各図書館の問い合わせ先/開館時間など】  
**りづらん** ☎3250/10:00~19:00  
 ※土・日・祝日の開館 10:00~18:00  
 ※エントランスの開館 9:00~21:00  
 ◇ミニミニおはなし会 (3歳~小学生向け)  
 感染症対策にご協力ください (先着5組程度)。  
**表郷図書館** ☎4784/10:00~18:00  
**大信図書館** ☎463614/10:00~18:00  
**東図書館** ☎41130/10:00~18:00

※最新の情報は、図書館にお問い合わせいただくか、ホームページや館内掲示板をご確認ください。



図書館からのお知らせ

《10周年記念イベント》

令和3年7月にりづらんは開館10周年を迎えます。さらにりづらんを身近に感じられるイベントを予定しています。

▷ティーンズ落書き会

りづらん2階ティーンズコーナーのガラス窓に、高校生が絵を描いてフオトスポットを作ります。詳しくは、ホームページやツイッターをご覧ください。

《図書館ボランティアを新規募集します》

- 募集期限 5月30日(日)
- 活動期間 6月15日(火)~令和4年3月31日(休)
- ※ボランティア保険に加入します (加入料は不要)。
- 活動内容 ブックスタートの協力、おはなし会での読み語り、棚の整理など
- 申込方法 りづらんで配布する申込書に記入のうえ、提出してください。

※感染症対策のため開始時期が変更になる可能性があります。詳しくは、お問い合わせください。

今月のテーマ展示

大人向け



春を迎え、芽吹き季節です。雪溶けとともにやわらかくなった土に種をまくように、今まで気付かなかった・興味のなかったことに挑戦するヒントがもらえる本で、可能性の種をまいてみませんか？

子ども向け



新しいクラスや友だち…。新しいことが始まる春に、みんなの「新しい〇〇」を応援する本を集めました。ドキドキ・ワクワクしている人もきっと自分の1冊を見つけられるはずです！

※ホームページでもオススメの本を紹介しています。

おすすめ新刊



《一般図書》



いかに<気体>を発見し、手なずけてきたか  
**空気と人類**  
 サム・キーン/著 寒川 均/訳  
 自然界の気体としての空気。人類がどのように空気を利用し文明を発展させてきたか、人類と空気の関係の変化を3つの章に分け「空気とは何か」をおもしろく紹介する1冊です。

《児童図書》



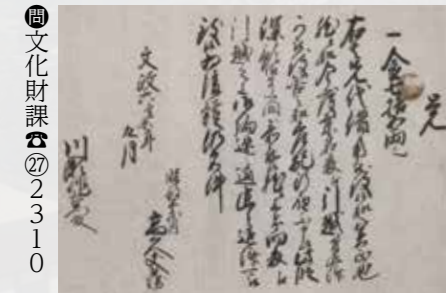
つくりかたがよくわかるお料理教室①  
**朝ごはん ごはんとみそ汁**  
 かんちく たかこ  
 毎日食べる朝ごはん。ごはん・パン・みそ汁・卵焼き・焼き魚などいろいろ種類はあるけど、自分で作るの難しそう。そんな時は、この本と一緒に作ろう！たくさん写真があり、楽しく挑戦できます。

小峰城よもやま話

第十三話 藩の転封と城の引き渡し

4月は入学・就職・転勤の季節です。転勤する方は、後任の方と引き継ぎをした方もいたのではないのでしょうか。  
 江戸時代の大名も時期はまちまちですが、領地を移る「転封」がありました。  
 文政6年(1823)に松平定信の子、定永が桑名へ移り、忍藩(行田市)の阿部正権が白河に移ってきた際のことを紹介しましょう。  
 白河にいた定永が幕府から江戸に来るように、との知らせを受けたのは3月12日でした。この時点では何の呼び出しもありません。  
 急ぎ準備して18日に白河を出た定永は、22日に江戸に着き、24日に江戸城で將軍から桑名転封を申し渡されました。  
 急な転封の知らせに、実際に桑名へ引越す白河の家臣は準備に追われました。例えば当時は、藩の財政難などで家臣たちは借金を抱えていました。白河を出発するまでに返せず、桑名に移ってから返済するという、白河の町人宛ての借用証文から引越しの慌ただしさがうかがえます。

この狭間(鉄砲や弓を放つ隙間)の数の報告などが指示され、作成する城絵図には櫓・門の数、寺や町の名の記入まで指図されています。  
 このように転封は、幕府が細かく指示し、城も大名同士で直接は受け渡しできず、必ず幕府の使者(上使)が派遣され、立ち合いました。城や領地は「將軍が一時的に預けている」と認識されていたためと考えられています。  
 受け渡し当日(9月28日)、上使が小峰城に入り、受け渡し開始を指示すると、城の各門が松平家から阿部家の門番に引き渡され、続いて書類などが引き継がれました。  
 こうした手続きを経て、転封はようやく完了するのです。



▲今までの借金を桑名転封後に返済する旨を記した松平家家臣服部半蔵の借用証文(歴史民俗資料館蔵)

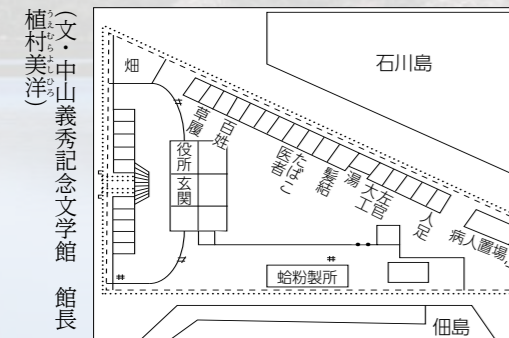
洪沢栄一×松平定信 南湖を彩る系譜

第四回 松平定信の革新的政治

松平定信は保守的政治家の印象がありますが、実際には先駆的政策をいくつも実行しています。政治理念を同じくする仲間と「政策研究会」にあたるものをつくり、老中就任の際には、その中から優秀な人材を幕閣に登用しました。  
 東京学芸大学名誉教授竹内誠氏は「定信は初めて政策政治を行い『吉宗政策と田沼政策を一歩進めた両方の延長線上にある政策』を実行した」と高く評価しています。  
 寛政の改革の中で、定信は民政を担当する郡代と代官を大幅に(19人)入れ替えています。「悪代官」を一掃し、有能な代官を抜擢して農村を立て直そうとしました。その中に、埴代官寺西封元がいました。  
 封元は、定信の政治方針に倣った間引き防止や人口増加策を実行します。また、広域的な連携が必要であると考え、水戸藩・白河藩・棚倉藩をはじめとする十数藩の役人を集めた「地方官会議」を開いています。このような画期的な事業の陰には、定信の影響あるいは支援があったに違いありません。  
 また、火付盗賊改の長谷川平蔵の提案を受けて、定信は石川島の埋め立て地に「人足寄場」



▲『寺西重次郎封元肖像画』(秦太郎氏所蔵)



▲寛政2年(1790)の人足寄場(「一話一言」より)